

働き蜂が分泌し、女王蜂のえさとなるローヤルゼリー。乳白色のクリーム状で滋養強壯の効能があり、栄養剤として広く利用されている。一九六三年に国内で初めて、医薬品として製造を始めた。

自社製品のほか、医薬品と食品メーカーへの原料供給シェアは四割を占める。中村正社長は「養蜂業界の先駆者となり、信頼を勝ち取ろうとしてきた」と話す。医薬品製造は現在、関連会社の「日本養蜂」が取り組む。

日本の真ん中に位置する岐阜は、近代養蜂発祥の地。創業当初は秋田杉を扱う材木商だったが、一八八七年に秋田杉で作ったハチの巣箱の製造・販売をスタート。

ローヤルゼリーの採蜜は、働き蜂が新しい女王蜂育成のために、ふ化後三、四日以内の幼虫に口

秋田屋本店 (岐阜市)



28

ローヤルゼリーを与える習性を利用。プラスチック製の巣にローヤルゼリーを繰り返し分泌させる。



ローヤルゼリーを手に、「新たな医薬品作りにつなげたい」と話す中村正社長＝岐阜市加納富士町の秋田屋本店で

ローヤルゼリー薬に力

同社は、素早い採蜜をし、八年かけて成果を出可能にするため、ハチのした。現在はローヤルゼリーの土台となる六角形模様のシート「巣礎」を日入れて。中村社長は「未本で初めて作るなど、養蜂業の発達に寄与してきた。解明のストレス予防や脳の活性化などの効能を立証しようとしている。新

医薬品としての認可は、一九五五年から岐阜薬科大と共同研究を開始する。(佐久間博康)

会社概要 本社は岐阜市加納富士町。1804(文化元年)創業。従業員280人。資本金500万円。売上高66億円(2011年8月期)